

生きる力を育てる \_\_\_\_\_ 平成25年度指定

家庭・学校・地域で育てる「藤山っ子」

～絆でつながる「藤山家族」

宇部市立藤山小学校

## 1. 学校地域の概要

育成会会長： 奥谷 祐司

学 校 長： 今田 浩

児 童 数： 683名

会 員 数： 546

(家庭数 511名 教職員数 35名)

所 在 地： 〒755-0801

山口県宇部市上条四丁目4番1号

T E L：083621-9158

F A X：083632-6407

E-mail：[fye@ube-ygc.ed.jp](mailto:fye@ube-ygc.ed.jp)

### (1) 学校の特徴

本校区は、宇部市の西部にある厚東川の東岸に沿って、南北に長く広がった地域で面積は7.08k㎡。北東より南西にゆるく傾斜し東は旧宇部市地域に、西は厚東川を隔て厚南地区に、北は低い山並みのかなたに霜降山を望んで厚東地区に接し、南は平地の果て瀬戸内海に入るが、その海岸に工場群がある。

藩政時代には、藤曲、沖ノ旦、中山の3村からなり、明治22年、新町村制により合併して藤山村となり、さらに昭和6年、宇部市に合併され今日に至っている。

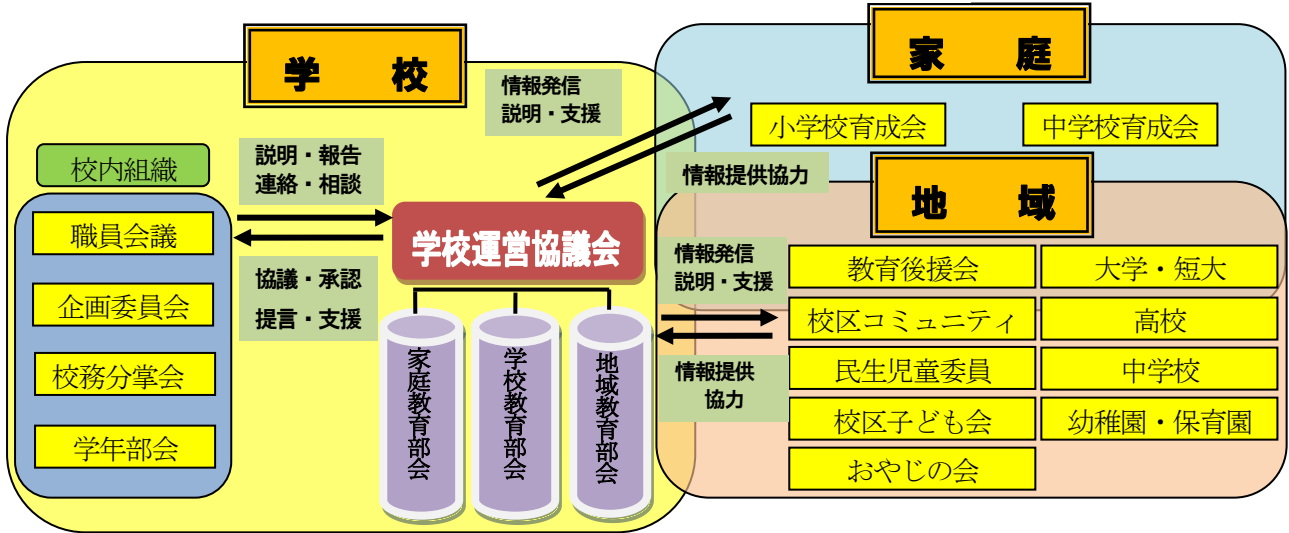
本校区は、宇部地方においては最も古く開けた地域である。近年、丘陵地が住宅地として開拓され、児童数も増えている。小学校を中心に、保育園、幼稚園、中学校、高等学校、大学がある文教地区であり、教育環境に恵まれている。

また、本校区は、従来から地域のコミュニティ活動が大変盛んで、各種団体が市民活動やスポーツ・文化活動に積極的に取り組んでいる。そして、学校教育の支援や子どもたちの健全育成に大きな力を発揮している。

本校は、青木周蔵がヨーロッパから種を持ち帰ったといわれるプラタナスに象徴されるように、開校140年に及ぶ長い歴史と伝統のある学校で、卒業生は15,000余名を数え、市内はもとより全国各地で活躍している。

子どもたちは、明るく素直で元気があり、「あいさつ・廊下歩行・清掃」を今年のチャレンジ目標に、日々の教育活動に熱心に取り組んでいる。

## 宇部市立藤山小学校 コミュニティ・スクール組織図



### (2) 学校の目標

## 平成25年度 学校運営ビジョン

### チャレンジ目標

## あいさつ 廊下歩行 清掃

### 学校教育目標

豊かな人間性をそなえ、将来社会の一員として自立し、たくましく生きていく力をもつ児童の育成

#### めざす児童像

- 学校が好きなたくましい子ども—
- ◆考える子：自ら学び考える事の出来る子ども
  - ◆明るい子：素直で明るい子ども
  - ◆やさしい子：思いやりのある優しい子ども
  - ◆つよい子：丈夫でくじけない元気な子ども
  - ◆協力する子：仲良く力を合わせて働く子ども

#### めざす教師像

- 信頼される教師—
- ◆保護者・子ども・地域の信頼にこたえうる教師
  - ◆子どもと共に感動する教師
  - ◆使命感に燃え、常に教育の道を探求する教師

#### めざす学校像

- 期待される学校—
- ◆一人ひとりの期待や願いが生かされ、尊重される学校
  - ◆みんなの心が通い合う温かい学校
  - ◆規則正しく活力に満ちた学校

#### 知 <学力>

- (課題)
- ・基礎基本の習得 ・発表する力
  - ・自らの考えをまとめる力
  - ・表現力 (話す、聴く、書く)
  - ・チャレンジする力
  - \*自ら学び考え主体的に行動する力
  - \*物事をやり遂げる力や精神力

- (取組)
- ◆読書、作文、暗唱等を活用した言語活動の充実
  - ◆算数科少人数指導の実施学年の拡大 (3年～6年)
  - ◆宿泊体験学習の実施 (5年)
  - ◆家庭学習の充実 (家庭教育の手引き作成等)

#### 徳 <学校集団の質>

- (課題)
- ・我慢する力 (耐性)
  - ・正しい言葉遣い
  - ・友達関係・仲間づくりを意識した学級づくり
  - ・自分の思いや考えを伝える力
  - ・人の思いや考えを聴く力
  - \*人間関係を築く力やコミュニケーション能力
  - \*思いやりの心や善悪の判断等の道徳心

- (取組)
- ◆道徳教育、人権教育、特別支援教育などの重視
  - ◆体験活動の充実 (5年宿泊学習、全校縦割班活動)
  - ◆教育相談活動の充実

#### 体 <体力>

- (課題)
- 体力：筋力・筋持久力、俊敏性、跳力 投力
- 疾病：むし歯 (71.6%) \*全国 57.2%  
歯 垢 (19.1%) \*全国 3.0%  
歯周炎 (19.7%) \*全国 1.9%
- 習慣：早寝、早起き、朝ごはん 歯みがき

- (取組)
- ◆体育・保健学習の充実
  - ◆疾病治療の促進 (家庭の理解と協力)
  - ◆家庭と連携した健康習慣の形成

様々な対話の場の設定

取組成果の客観的な評価

<研究主題> 自らの考えを持ち、学び合い、共に高まり合う子どもの育成

## 2.PTA の組織と活動

### ◎藤山小学校育成会の目的

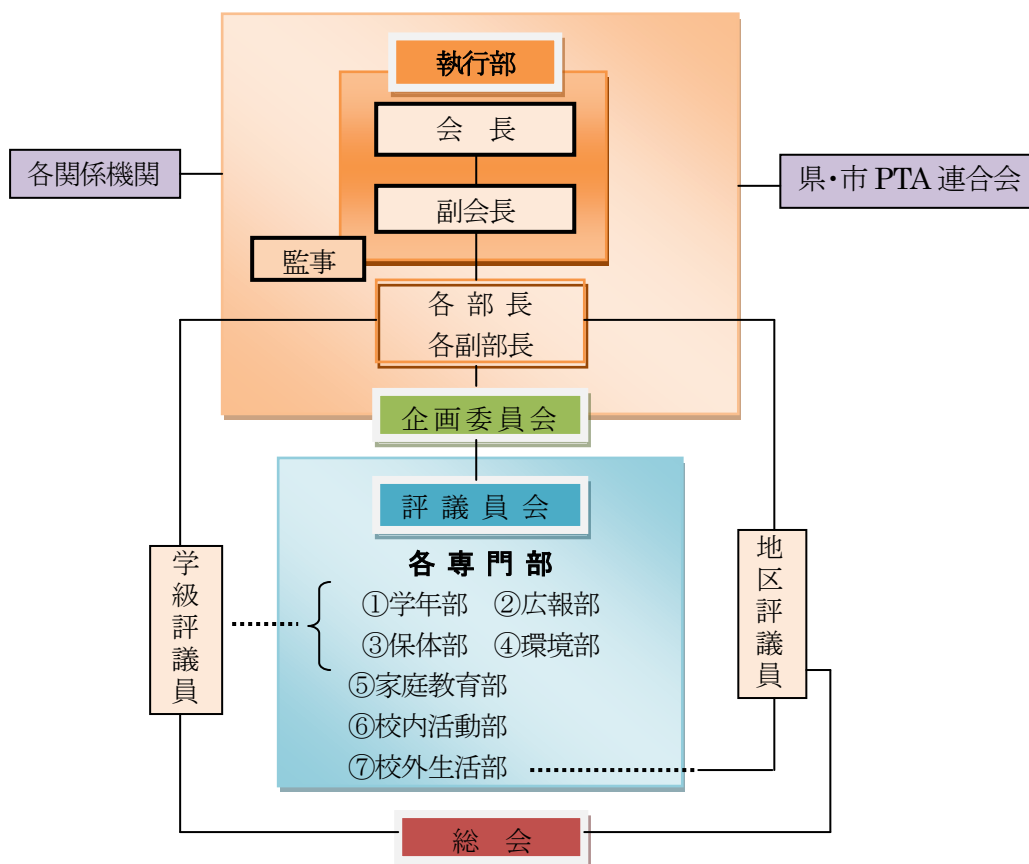
藤山小学校の子ども一人一人の健全な成長を図り、家庭と学校が協力して教育に対する理解と推進に努めることである。また、校外における生徒指導の徹底、地域における教育環境の改善・充実を図ることも目的にしている。

### ◎藤山小学校育成会の性格

育成会は、藤山小学校の子ども一人一人の幸せのために保護者と教職員が自主的に組織・運営する任意の団体である。

保護者と教職員が互いに力を出し合って、子ども一人一人の夢と希望の実現に向けて活動することが大切である。そこで、多くの人の知恵と力を注ぐために、全員参加の育成会を合言葉に、育成会活動を推進していきたいと考えている。

# 宇部市立藤山小学校PTA活動



## (1) 組織および運営

## ① 役員の選出

○会長（1名） 副会長（5名以内 \*内1名は校長） 監事（2名）

○各専門部部長・副部長

○学級評議員（各学級4名）および地区評議員（各地区1名）

\* 各学級から選出された4名の学級評議員は、学年・広報・保体・環境の各専門部に所属し、地区評議員は校外生活部に所属する。

○家庭教育部（募集によって構成）

## ② 総会（年1回 5月に開催）

## ③ 企画委員会（年4回開催）

○執行部と各部長・副部長が行事などについて企画・立案する。

## ④ 評議員会（年3回開催）

○執行部と各専門部（学級評議員・地区評議員）が集まり協議する。

## ⑤ 各専門部会および家庭教育部（計画の実施に伴い随時開催）

## (2) 専門部の活動

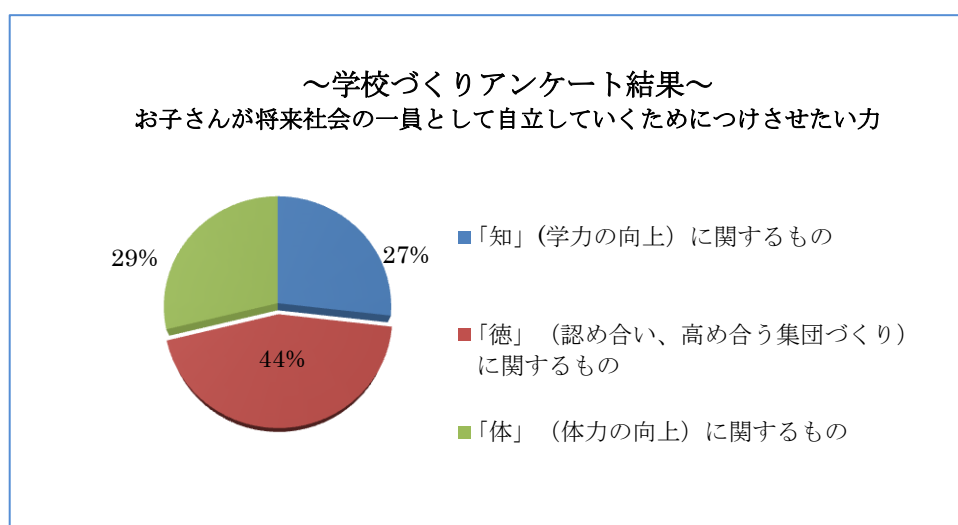
## 藤山小学校育成会年間活動

月	学年部	広報部	保体部	環境部
4	・評議員選出 ・役員選出	・評議員選出 ・役員選出	・評議員選出 ・役員選出	・評議員選出 ・役員選出
5	・事業計画検討 ・総会、部会	・事業計画検討 ・総会・PTA 広報誌 編集研修会	・事業計画検討 ・総会・部会・育成会 競技企画準備開始	・事業計画の検討 ・総会・部会、バザー 準備
6		部会		部会・バザー準備
7	PTA 役員研修会	・部会・広報誌発行 ・PTA 役員研修会	PTA 役員研修会	PTA 役員研修会
9	・評議員会 ・運動会への協力	・評議員会 ・運動会への協力	・評議員会・運動会 育成会競技企画、準備 ・部会・運動会 前々日準備・運動 会への協力	・評議員会・部会 ・運動会前々日準備、 同当日トイレ掃除
10				バザー準備
11			部会	・部会・友愛バザー
12		・部会 ・広報誌発行	・持久走大会交通指導 ・学校保健委員会への 協力	
1	部会	・部会 ・PTA 新聞展示会	学校保健委員会への 参加	
2	・評議員会・育成会 PR 冊子の作成 ・評議員選出準備 ・部会	・評議員会 ・部会	評議員会	評議員会
3	部会	・広報誌発行 ・部会		

月	校外生活部	家庭教育部	校内活動部
4	・評議員選出 ・役員選出	学級生募集	評議員選出
5	・事業計画検討 ・総会	・開講式 ・オリエンテーション	・事業計画検討 ・総会
6	部会（交通指導について）	教育講座	
7	・地区巡回 ・PTA 役員研修会	・PTA 役員研修会 ・教育講座	PTA 役員研修会
8	・いじめネットワーク ・地区巡回	教育講座	
9	・評議員会 ・運動会への協力	教育講座	・評議員会 ・運動会への協力
10		教育講座	
11		教育講座	
12		教育講座	
1		学校保健委員会への参加	
2	・評議員会 ・いじめネットワーク		評議員会
3		・教育講座 ・閉講式	

### 3.研究主題について

家庭・学校・地域で育てる「藤山っ子」  
～絆でつながる「藤山家族」



本校では、これまで地域や保護者が一体となった活動を積極的に行ってきた。子どもたちが地域の方々と触れ合うために地域行事へ積極的に参加し、また高学年の通学宿では、地域の方々の手助けもあり、絆を深める機会となっている。

平成 24 年、保護者を対象にアンケートを実施した中で「子どもが将来社会の一員として自立していくために、つけさせたい力は何か」という項目では、「徳」（認め合い、高め合う集団づくり）に関する回答が一番多かった。

本校の教育目標は「豊かな人間性をそなえ、将来社会の一員として自立し、たくましく生きていく力をもつ児童の育成」である。子どもたちへ願いを託すためには、家庭力・保護者力の向上を図り保護者世代が集う事により、子どもたちや地域へのつながりを強化し、次世代をつなぐ新たな「コミュニティ」を作り出す事が大切だと考えている。また、子どもたちが保護者や先生以外の大人と触れ合う事により、健全にそしてたくましく育つことに繋がっていくと思う。

昨年度よりコミュニティ・スクールの指導を受け、人が変わっても繋がっていくような関係を更に強めていき、地域との「絆」を伝統化していければと考えている。

今回「校種間交流」「地域交流」「他学年交流」「保護者交流」など、交流の場を多く設定し、今まで以上に「つながり～コミュニティ」に重点を置き、取り組むこととした。

## 4 活動内容

### (1) 校種間交流 ～ 文教地区を活かした活動

#### ① 幼稚園児・保育園児と 5 年生の交流会 ～ こいのぼりづくり

5 年生と保育園児、幼稚園児でこいのぼりを作った。  
園児たちが喜ぶためには、自分はどうありたいか、何をしたらよいかを考え交流に臨んだ。制作の途中では、保育園や幼稚園の子の話をよく聞いて作業を進めるなど、児童の良い面を垣間見ることができた。とてもユニークなこいのぼりがたくさんでき、子どもたちは大変喜んでいました。



## ②中学生と6年生の交流会 ～ 藤山中里帰り体験

小中連携の一環として、藤山中学校1年生と6年生の交流活動を行った。内容は、中学校の事を先輩に聞くというもの。こうした活動を通して、中学生は6年生から認められている、6年生の役に立っているという「自己有用感」を生徒全員が獲得できること、6年生は中学に進学するにあたって不安を取り除き、希望をもって入学できることをねらいとして行った。



## ③短期大学生と小学生の交流 ～ あいさつ運動

宇部フロンティア大学短期大学部学生（クリーンアップルサークル）によるあいさつ運動が原則、毎月1のつく日（1、11、21、31日）に実施されている。

運動を通し「児童が気持ちのよい挨拶ができるようにする」「学校と地域の連携を図り、地域の教育力の活性化を図る」「豊かな心を育てる」ことを目標にしている。

現在の状況は、元気な声で挨拶をする子、目が合えば遠くからでも挨拶をする子、きちんとおじぎをしながら挨拶をする子、声は小さいけれど自分から挨拶をする子、全く反応しない子など様々であるが、今後お互いに顔がわかるくらいに慣れてきたら、昼休みなどに一緒に遊ぶなど交流を図り、豊かな心の育成につなげていきたいと考えている。



## (2) 地域との交流 ～ 地域の方々とのふれあい

### ①交通教室

毎年、校区の交通安全協会の方々から4年生を対象に、自転車の正しい乗り方を指導していただいている。1人ひとりに優しく声をかけながら、丁寧に指導していただいた。



## ②名人に学ぼう

4年生の総合的な学習の時間で、地域の“名人”の方々を迎え、交流会を行った。

昔の遊びでは折り紙で折り鶴の折り方を教えてもらったり、竹の水鉄砲で遊んだり、こま回しなどで一緒に遊んだ。

また、日本で最初に走った機関車について説明する際に手作りのアルミ缶製の模型や絵を見せると、子どもたちは目を輝かせ見入っていた。

発泡スチロールの飛行機や、竹の水鉄砲など遊び道具はほとんど“名人”の手作りで、子どもたちにプレゼントしていた。

交流会の最後は、子どもたちが教えていただいたお礼にと、運動会で踊った「ソーラン節」や音楽の時間に学習したリコーダーを披露し、“名人”達も大変喜ばれていた。

後日、子どもたちは“名人”へお礼の手紙を書き、藤山ふれあいセンターへ届けた。“名人”の方々は、子どもたち一人一人の心のこもった手紙を見て目を細めていた。地域の方々との絆がとても深まり、大変良い企画だったと思う。



## ③藤山区民大運動会への参加

校区コミュニティ(体育振興会)が主催する校区運動会が、毎年5月に開催されている。

運動会では、各自治会が4つの団体に分かれ点数を競った。

「徒競走」「むかでリレー」「バナナ早食い競争」「縄跳び競走」など多種多彩な種目に、世代を超えて一緒に競技し楽しんだ。





## ④ふるさとまつりへの参加

毎年10月に開催される藤山校区のおまつり「藤山ふるさとまつり」に4年生有志として参加した。

今回は小学校の運動会で踊った「藤小ソーラン」を披露し、子どもたちが一生懸命に踊る姿に、観客の皆さんから大きな拍手をいただいていた。

ふるさとまつりへは毎年参加しており、地域の方々とのつながりを感じる場所となっている。



## ⑤藤山ゆめ音楽祭への参加

今年で3回目となる「藤山ゆめ音楽祭」に本校代表として6年生が参加した。

この音楽祭は校区の幼稚園・保育園・小学校・短大・地域のコーラスグループなど約500人の参加で、地域が一体となった「音楽の祭典」である。

ゆめ音楽祭の目的は、音楽を通して地域社会に貢献するとともに、異世代間の交流や連携で人づくりや明るい地域社会づくりを目指すことである。

6年生は「翼をください」「アメイジング・グレイス」の合唱を披露し、地域や保護者の方々から大きな拍手をいただいた。



## ⑥様々な交流

毎年、子ども委員会の活動として高学年を対象とした「通学合宿」では地域の方々のご協力により、食事の準備やお風呂などのお世話をいただいている。この合宿は、家庭生活での自分の役割を理解するきっかけづくりと同時に、子どもが社会で生きていく力をつける事を目的にしている。

その他、稲刈りや餅つき・どんど焼きなど日本の慣習行事を行ない、世代を超えた交流を行っている。



### (3) 他学年との交流 ～ 学年の枠を超えた交流

- 今年度より「縦割り活動プロジェクト」として、
- ①学年の枠を超えた相互の人間関係調整力、コミュニケーション力を育てる。
  - ②上学年の子どもはリーダーシップを身につけ、下学年のお手本となる態度を育てる。
  - ③下学年は、上学年の指導のもとで自分の役割を最後までやり抜いたり、上の学年の振る舞い方を身につける。

以上を目的として、活動をスタートした。

班は全体で50班あり、初回は各班ごとに上級生がリーダーとなり自己紹介の後、簡単なゲームを一緒に行ない楽しんだ。

また、10月に行われた「藤小まつり」と題した授業参観では縦割り班で活動し、各コーナーごとに準備されたゲームやチャレンジコーナーなどを回り、楽しんでいた。



### (4) 保護者の活動 ～ 次世代へつなぐ交流

#### ①家庭教育部

本校保護者のつながりを強化する活動として「家庭教育部」の存在はとても大きく、様々な場でこのつながりが役に立って育成会活動が活発に行われていると言っても過言ではない。年間、約10回程度の講座が企画・開催される。開講式で保護者の希望を聞き、それに沿って班を作り、計画を立てていくといった自主的な講座の開催が本校の特徴で、良好な活動として年々盛り上がってきている。



## ②校内活動部

本校の読み聞かせは低学年が金曜日、高学年が月曜日に保護者や地域の方々によって行われている。絵本や紙芝居の読み聞かせはもちろんのこと、時にはパソコンを使ったり、なぞなぞをしたりと子どもたちが楽しい時間を過ごせるよう工夫を凝らして活動している。



## ③さまざまな交流

おやじの会は小野湖でのキャンプ、子ども会では、球技大会など、子ども同士・保護者同士また地域の方との交流を積極的に行なっている。

平成23年度に結成された「藤山グリーンサポート倶楽部」は「運動場の芝生化」をきっかけに学校・保護者・地域がつながりを持つたということから活動を開始し、思った以上にコミュニティスキルとして「芝生化」が「つながり」を生んでいる状態である。

この倶楽部は芝生に関するだけでなく、様々な場面で活躍している。

地域の大学生や本校の児童・保護者が「よさこいチーム」を結成し、行事の中で素晴らしい踊りを披露している。

また PTA コーラス交歓会では保護者はもちろんのこと、本校の先生もメンバーとなり練習を重ね、本番では素晴らしい歌声を会場に響かせていた。

様々な活動・交流を通してお互いが顔見知りとなり、つながりが生まれている。世代を超えた交流は子ども達や地域へのつながりを強化し、次世代をつなぐ新たなコミュニティを作り出すと考え、これからも、「つながり」「絆」を生む交流を行っていききたい。



## (5) 近況報告 ～ 通学路対策

藤山校区コミュニティ運営協議会から毎年、宇部市へ通学路対策の要望を出していただいていたが、この度藤山校区の通学路（2か所）にグリーン安全ベルトが施行された。

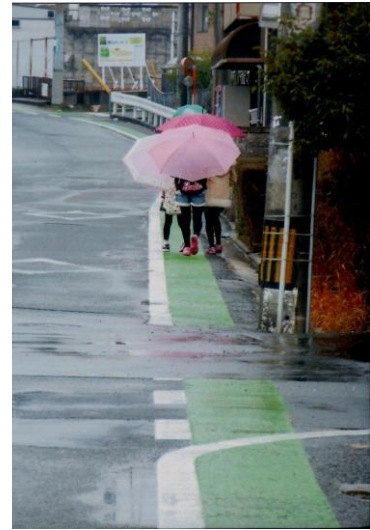
校区にとっては数十年来の「通学路対策」が形となった。

「通学路の変更はできないか」、「一方通行にならないか」等、諸先輩が様々な意見交換をされてきた。

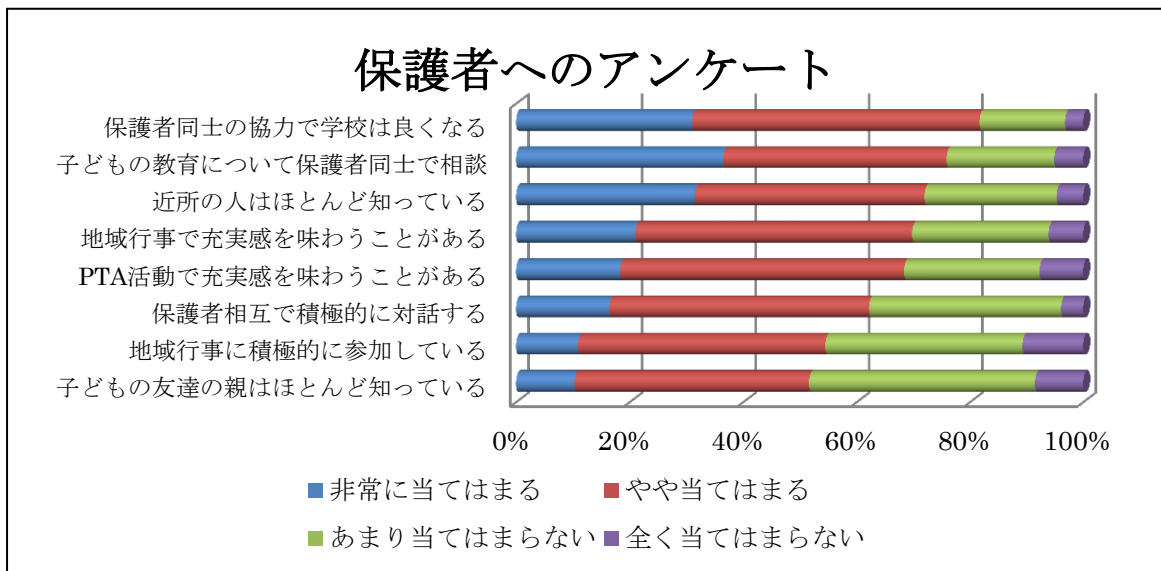
通学時間等に観察してみると、グリーンベルトが施行された道路を利用するドライバーの温かいお気遣いを実感する。

以前に比べて車の速度に変化がみられ、車同士がすれ違う際には、以前よりも更に『譲り合い』をいただいている。

これからも校区の皆さんと協力して、積極的に諸問題を解決していきたいと思う。



## 5 成果と課題



毎年、学校・保護者・地域が様々な場面での交流を図っているが、今年度は従来の交流・情報交換力の強化に加え、他学年との交流の場として「縦割り活動」や大学生との交流である「大学生によるあいさつ運動」など、新しい取組も行ってきた。

様々な交流を通して、どの世代でもお互いに顔を覚え声をかけあえることが理想であり、子どもの健全な育成にもつながる。今年度の積極的な取組は、その理想へ確実に近づいたと考える。また、積極的な交流により、子ども同士や保護者同士の絆が強まり、学校と家庭の連携強化に繋がった。このことは、保護者へのアンケート結果からもわかる。

今後はさらに様々な交流の場面を設け、より一層絆を深めていき、人が変わっても繋がっていくような関係をさらに強め、「絆でつながる藤山家族」に向けた更なる活動を行ってきたい。

最後に、研究助成の支援をいただいた山口県PTA連合会に心から感謝申し上げ、ご報告といたします。